農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

舞鶴市長 鴨田 秋津

市町村名 (市町村コード)	舞鶴市 (26202)
地域名 (地域内農業集落名)	八雲地区 (下東)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 7年 1月 23日 (第 1 回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題 ※

農業者の高齢化が進み、後継者や担い手不足が懸念される状況である。
また、水田の73%を(株)下東農産、15%を岡本氏が耕作している。畑は33%を(株)下東農産が保全管理を行い、36名が体力に応じて野菜を作っている。畑の一筆当り面積が330㎡と小さく効率が悪い。

(2) 地域における農業の将来の在り方 ※

水田はコシヒカリと加工用米、そばを継続的に栽培を行っていく。
畑は個人の耕作が難しくなれば、大半の農地を(株)下東農産が受託する計画。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	16.20 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	16.20 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

別添地図のとおり

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積・集約化の方針 ※	農地中間管理機構を利用して耕作意欲のある担い手や(株)下東農産への集約化を進める。特に地域内の優良農地については耕作放棄としないよう努める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針 ※	H27年契約から10年が経過するため、更新と新規契約を行い集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組方針 ※	地区内の農地についてはほぼ基盤整備は完了済みである。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針	土地所有者の意向を把握し、地区外から担い手を募集し担い手の確保・育成に努める。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針	なし

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①頻繁に有害鳥獣が出没するため、檻やメッシュ柵の設置・管理を行う。
- ②特別栽培米の作付けを行う。
- ⑦(株)下東農産を中心に保全・管理を行う。